

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)日進市赤池箕ノ手4街区計画	階数	地下1階地上19階
建設地	仮換地:日進赤池箕ノ手地区画整理事業地内4街区1番地6番	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域	平均居住人員	447 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	202*/*/* 予定	評価の実施日	2022年7月25日
敷地面積	2,968 m ²	作成者	山本 勇
建築面積	746 m ²	確認日	2022年8月1日
延床面積	10,970 m ²	確認者	山本 勇



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.3

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
 ①参照値: 100%
 ②建築物の取組み: 56%
 ③上記+②以外の: 56%
 ④上記+: 56%

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.7

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.7

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">4.7</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">61.8 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.8</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄							全体
配慮項目	独自基準 重点項目	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体		
					評価点	評価点	重み係数	評価点		評価点	重み係数
Q 建築物の環境品質										2.9	
Q1 室内環境										3.2	
1 音環境										2.9	
1.1 室内騒音レベル		0.1	1.5	0.15	3.3	3.3	1.00	-	2.9		
1.2 遮音		0.5	1.0	0.50	3.6	3.6	0.50	-	3.2		
1 開口部遮音性能		-	-	1.00	-	-	5.0	0.30			
2 界壁遮音性能		-	-	-	-	-	3.0	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	3.0	-	-	-	3.0	0.20			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	-	3.0	0.20			
1.3 吸音		-	-	-	-	-	-	-			
2 温熱環境										3.1	
2.1 室温制御		0.3	2.3	0.35	3.3	3.3	1.00	-	3.1		
1 室温		0.5	2.6	0.50	3.3	3.3	1.00	-			
2 外皮性能		3.0	3.0	0.63	-	-	3.0	0.63			
3 ゾーン別制御性		3.0	2.0	0.38	-	-	4.0	0.38			
2.2 湿度制御		3.0	2.0	0.20	-	-	-	-			
2.3 空調方式		3.0	2.0	0.30	-	-	-	-			
3 光・視環境										3.2	
3.1 昼光利用		0.2	3.0	0.25	3.2	3.2	1.00	-	3.2		
1 昼光率		0.3	4.2	0.30	3.5	3.5	0.50	-			
2 方位別開口		3.0	5.0	0.60	-	-	4.0	0.50			
3 昼光利用設備		3.0	3.0	0.40	-	-	3.0	0.30			
3.2 グレア対策		0.3	2.0	0.30	3.0	3.0	0.50	-			
1 昼光制御		5.0	2.0	1.00	-	-	3.0	1.00			
3.3 照度		3.0	3.0	0.15	-	-	-	-			
3.4 照明制御		3.0	3.0	0.25	-	-	-	-			
4 空気質環境										3.6	
4.1 発生源対策		0.2	3.6	0.25	3.6	3.6	1.00	-	3.6		
1 化学汚染物質		0.6	4.0	0.60	4.0	4.0	0.63	-			
4.2 換気		0.4	3.0	0.40	3.0	3.0	0.38	-			
1 換気量		3.0	3.0	0.50	-	-	3.0	0.33			
2 自然換気性能		3.0	-	-	-	-	3.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮		3.0	3.0	0.50	-	-	3.0	0.33			
4.3 運用管理		-	-	-	-	-	-	-			
1 CO ₂ の監視		3.0	-	-	-	-	-	-			
2 喫煙の制御		3.0	-	-	-	-	-	-			
Q2 サービス性能										2.7	
1 機能性										2.2	
1.1 機能性・使いやすさ		0.4	3.0	0.40	2.0	2.0	1.00	-	2.2		
1 広さ・収納性		0.4	3.0	0.40	2.0	2.0	0.60	-			
2 高度情報通信設備対応		3.0	-	-	-	-	2.0	1.00			
3 バリアフリー計画	独自	3.0	3.0	1.00	-	-	-	-			
1.2 心理性・快適性		0.3	3.0	0.30	2.0	2.0	0.40	-			
1 広さ感・景観(天井高)		3.0	-	-	-	-	3.0	0.50			
2 リフレッシュスペース		3.0	-	-	-	-	-	-			
3 内装計画		3.0	3.0	1.00	-	-	1.0	0.50			
1.3 維持管理		0.3	3.0	0.30	-	-	-	-			
1 維持管理に配慮した設計		3.0	3.0	0.50	-	-	-	-			
2 維持管理用機能の確保		-	3.0	0.50	-	-	-	-			
2 耐用性・信頼性										3.0	
2.1 耐震・免震・制震・制振		0.3	3.0	0.31	-	-	-	-	3.0		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		0.4	3.0	0.48	-	-	-	-			
2 免震・制震・制振性能		3.0	3.0	0.80	-	-	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		0.3	3.1	0.33	-	-	-	-			
1 躯体材料の耐用年数		-	5.0	0.23	-	-	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②	-	2.0	0.23	-	-	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		-	2.0	0.09	-	-	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-	3.0	0.08	-	-	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		-	3.0	0.15	-	-	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		-	3.0	0.23	-	-	-	-			
2.4 信頼性		0.1	2.8	0.19	-	-	-	-			
1 空調・換気設備		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-			
2 給排水・衛生設備		3.0	2.0	0.20	-	-	-	-			
3 電気設備		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-			
4 機械・配管支持方法	②	3.0	3.0	0.20	-	-	-	-			
5 通信・情報設備		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-			

3 対応性・更新性				0.2	3.0	0.29	3.1	3.1	1.00	3.0	
3.1 空間のゆとり				-	-	-	3.2	3.2	0.50		
1 階高のゆとり			②	階高2920mm以上		-	-	4.0	0.60		
2 空間の形状・自由さ					3.0	-	-	2.0	0.40		
3.2 荷重のゆとり				3.0	-	-	3.0	0.50			
3.3 設備の更新性				1.0	3.0	1.00	-	-	-		
1 空調配管の更新性				-	3.0	0.17	-	-	-		
2 給排水管の更新性				3.0	3.0	0.17	-	-	-		
3 電気配線の更新性				3.0	3.0	0.11	-	-	-		
4 通信配線の更新性				3.0	3.0	0.11	-	-	-		
5 設備機器の更新性				3.0	3.0	0.22	-	-	-		
6 バックアップスペースの確保				3.0	3.0	0.22	-	-	-		
Q3 室外環境(敷地内)				-	-	0.30	-	-	-	2.7	
1 生物環境の保全と創出			独自③	-	2.0	0.30	-	-	-	2.0	
2 まちなみ・景観への配慮			独自④	-	3.0	0.40	-	-	-	3.0	
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	3.0	0.30	-	-	-	3.0	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④	-	3.0	0.50	-	-	-		
3.2 敷地内温熱環境の向上				-	3.0	0.50	-	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	-	-	3.5	
LR1 エネルギー				-	-	0.40	-	-	-	4.0	
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPI=-		3.0	4.0	0.33	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.17	-	-	-	3.0	
3 設備システムの高効率化				BEI=0.83		3.0	5.0	0.33	-	-	5.0
4 効率的運用				0.1	3.0	0.17	-	-	-	3.0	
集合住宅以外の評価				-	-	-	-	-	-		
4.1 モニタリング				3.0	-	-	-	-	-		
4.2 運用管理体制				3.0	-	-	-	-	-		
集合住宅の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	-		
4.1 モニタリング				-	3.0	0.50	-	-	-		
4.2 運用管理体制				-	3.0	0.50	-	-	-		
LR2 資源・マテリアル				-	-	0.30	-	-	-	2.9	
1 水資源保護				0.1	3.0	0.15	-	-	-	3.0	
1.1 節水				3.0	3.0	0.40	-	-	-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	-		
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	1.00	-	-	-		
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	-	-	-	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	2.8	0.63	-	-	-	2.8	
2.1 材料使用量の削減				-	2.0	0.07	-	-	-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.24	-	-	-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			②	-	3.0	0.20	-	-	-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			独自	-	3.0	0.20	-	-	-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	2.0	0.05	-	-	-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自	3.0	3.0	0.24	-	-	-		
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0	
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32	-	-	-		
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.0	0.68	-	-	-		
1 消火剤				-	-	-	-	-	-		
2 発泡剤(断熱材等)				-	3.0	1.00	-	-	-		
3 冷媒				3.0	-	-	-	-	-		
LR3 敷地外環境				-	-	0.30	-	-	-	3.5	
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率56%		-	4.7	0.33	-	-	4.7
2 地域環境への配慮				0.3	2.8	0.33	-	-	-	2.8	
2.1 大気汚染防止				-	3.0	0.25	-	-	-		
2.2 温熱環境悪化の改善				-	3.0	0.50	-	-	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	2.5	0.25	-	-	-		
1 雨水排水負荷低減			独自	-	3.0	0.25	-	-	-		
2 汚水処理負荷抑制				-	3.0	0.25	-	-	-		
3 交通負荷抑制			独自	-	3.0	0.25	-	-	-		
4 廃棄物処理負荷抑制				-	1.0	0.25	-	-	-		
3 周辺環境への配慮				0.3	3.1	0.33	-	-	-	3.1	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-		
1 騒音			独自	-	3.0	1.00	-	-	-		
2 振動			独自	-	-	-	-	-	-		
3 悪臭				-	-	-	-	-	-		
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-		
1 風害の抑制				-	3.0	0.70	-	-	-		
2 砂塵の抑制				-	1.0	-	-	-	-		
3 日照障害の抑制				-	3.0	0.30	-	-	-		
3.3 光害の抑制				0.2	3.7	0.20	-	-	-		
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				-	4.0	0.70	-	-	-		
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				-	3.0	0.30	-	-	-		

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)日進市赤池箕ノ手4街区計画

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策			4.7
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.7	0.10
② 資源の有効活用			2.8
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.8	0.19
③ 敷地内の緑化			2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09
			外構緑化:61.8%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)日進市赤池箕ノ手4街区計画

計画上の配慮事項	
総合	自然環境に配慮し、周辺環境に調和するように建物を計画し、室内環境の快適性に配慮した。また、社会の良質なストックとなるよう躯体の耐久性を高め、CO2排出量の削減に努めるなどして、ライフサイクルを通じた環境負荷低減をめざした。
Q1 室内環境	遮音性の高いサッシの採用や、外壁・屋根・窓などの高い断熱性能、庇等による日射熱負荷の低減により室内環境の快適性を高めた。また、全面的にF☆☆☆☆の内装仕上材を用い、シックハウス対策に配慮した。
Q2 サービス性能	可能な限り居室天井高を2.5mとし、ゆとりある住空間の確保に努めた。また、躯体耐用年数は劣化対策等級3相当とし、建物の信頼性についても考慮した。
Q3 室外環境(敷地内)	周辺地域に対して良好な景観を形成するよう配慮した。
LR1 エネルギー	省エネルギー対策等級4相当の高い断熱性能や、潜熱回収型給湯器の利用により建物の熱負荷抑制に配慮した。
LR2 資源・マテリアル	リサイクル材の使用、フロン・ハロンの不使用により、環境に配慮した。
LR3 敷地外環境	周囲の共同住宅の状況を考慮し、世帯数に対し十分な駐輪場台数を確保した。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。